

住み慣れた地域で、 自分らしく暮らすために

自らの最期について考えたことや誰かと話し合ったことはありますか。誰しもいつか必ず直面する心や体の衰え。市では、一人一人が住み慣れた地域で最期まで自分らしく暮らし続けることができるよう、在宅医療・介護連携推進事業を通して「人生会議」の普及・啓発に取り組んでいます。

◎問い合わせ いきいき長寿課 ☎ 23-2685



自分らしい生活を送るために 知っておきたい「成年後見制度」

認知症や知的障がい、精神障がいなどにより判断能力が不十分になると、契約や財産管理が難しくなることがあります。成年後見制度は、そうした人の権利を守り、自分らしい生活を継続できるよう支援する仕組みです。今回は、制度や支援の内容について紹介します。

◎問い合わせ 福祉課 ☎ 36-8711
障がい福祉課 ☎ 36-8715

やるつよー人生会議

人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）とは、もしもの時のために、自分の希望する医療ケアや大切なことについて前もって考え、家族など信頼できる人と繰り返し話し合う取り組みのことです。

誰しも命に関わる大きな病気やけがをする可能性があります。終末期など命の危険が迫った状態になると、約7割の人が医療ケアなどの意思決定が困難になるといわれています。最期まで自分らしく生きるために、人生会議で事前に意思を共有しておくことが大切です。

また、信頼できる人に希望などを伝えることは、本人の意思を尊重でき、家族の精神的な負担軽減につながるなど周囲の人にとっても大きな意味を持ちます。思いを伝えることができるうちに話し合いましょう。

エンディングノートを書く

人生会議で話し合った内容は、エンディングノートに書き留めましょう。病気やけがで意思表示ができなくなっても、自分に代わって判断する家族などが、その内容を知ることが活用されます。

成年後見制度の種類

成年後見制度には、法定後見と任意後見があります。

法定後見は、すでに判断能力が不十分になった人が対象で、家庭裁判所が成年後見人などを選任し、法律的に支援します。本人の判断能力に応じて「後見」「保佐」「補助」の3つの区分があります。

一方、任意後見は、本人に十分な判断能力があるうちに将来の支援者と契約を結ぶもので、判断能力が低下した後に、その契約に基づいて支援が始まります。

どんな人がなるの？

家族や親戚などのほか、福祉や法律の専門家、専門的な知識を有する地域の人や団体（法人）などがあることもあります。

成年後見人の役割は？

- ・定期的な訪問や生活の状況確認
- ・不動産や預貯金などの財産管理
- ・医療・介護・福祉サービスなどの手続きや契約の手伝い など

また、家庭裁判所への報告義務もあります。なお、食事の世話や介護などは職務に含まれません。

希望や思いは、時間の経過や健康状態によって変化することもありますので、定期的に振り返って、繰り返し話し合い、書き直していきましょう。

そして、信頼できる人にエンディングノートを書いておくことや保管場所を伝えておく、「エンディングノート」の内容にあなたの希望であることを共有しましょう。

詳しく知りたい時は？

次の相談窓口に相談ください。

- ・福祉課、障がい福祉課
- ・各地区の地域包括支援センター
- ・権利擁護センター（都城市社会福祉協議会）など

専門職が連携して支援します！ 都城市成年後見ネットワーク会議

本会議は平成24年の発足以来、判断能力が低下した人の権利擁護を法律・医療・福祉の専門職が連携して推進してきました。市民の皆さんが制度を身近に感じられるよう、講演会や個別相談会を通して普及啓発に取り組んでいます。今年度の開催が決まり次第、広報紙などでお知らせする予定です。ぜひ参加ください。



都城市公証人役場 公証人
都城市成年後見
ネットワーク会議 会長
久保 朝則さん

エンディングノート・人生会議 漫画を配布しています

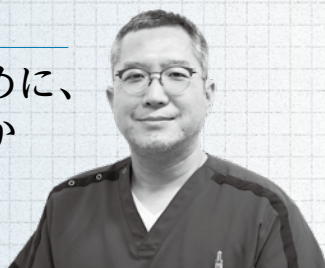
◎配布場所 いきいき長寿課、各地区地域包括支援センター、都城市北諸県郡医師会（在宅医療・介護連携相談支援センター）、都城市・三股町の医療機関など



Interview

人生を豊かに過ごすために、 家族で話してみませんか

医療法人吉誠会 吉見クリニック
院長 吉見 雅博先生



これから高齢化が進んでいく中で、ACPの重要性がさらに高まっています。当法人は、病院と介護施設の運営を通して医療と介護が必要な人を一体的にサポートしていて、現場でも積極的にACPに取り組んでいます。

医療現場で急変対応に当たる中で、本人の希望を家族や医療・介護スタッフで共有しておく重要性を日々感じていて、診療の都度、本人の希望をよく聞き、ご家族にも確認することを大切にしています。また、検査などのタイミングでACPについて説明することで、家族で話をしてもらうきっかけづくりにも取り組んでいます。

大切なのは「最期に向かって、人生をいかに豊かに過ごすか」という視点です。若いうちから、自分がどうありたいのか人生プランを考えておくこともおすすめです。

ぜひ皆さんも、まずはネットなどで人生会議について調べることから始めてみてください。